

第226回地質調査所研究発表会講演要旨*

特集 地質図で表現された日本列島の素顔

日本列島の成り立ちを詳しく理解することは、国土の開発・利用、自然災害の予知・防止、環境保全など、私たちの生活を豊により安全にする上で大変重要なことです。地質調査所は、1992年8-9月に京都で開催された第29回万国地質学会議(IGC)に向けて、100万分の1日本地質図第3版を刊行しました。近年における地球科学のめざましい進歩を反映して、この第3版では日本列島の地質構成や発達史に関する解像度が、第2版(1978年発行)に比べ大幅に向上しました。1980年頃からは、地質調査所の5万分の1地質図幅の出版も著しく進み、その成果が今回の日本地質図の改訂の土台となっています。本講演会では、これらの地質図に表現され、その基礎をなしている地球科学の革新的な内容を解説するとともに、最近出版された各種地質図、CD-ROM版デジタル地質図など最新の成果を展示・紹介しました。また、特別講演では新しい時代に向けた応用地質学の課題と、必要とされる地質情報について、地質コンサルティングの立場から紹介しました。ここでは、プログラムを紹介します。

中・古生界研究の進歩と 100万分の1日本地質図改訂

木村克己

1970 - 1980年代の地質学の進歩を反映して、100万分の1地質図(第3版)の中・古生界は大きく塗り替えられた。その内容は放散虫革命とプレートテクトニクス論の上に築きあげられた付加体地質学ともいべき新しい概念に基づいている。講演では付加体地質学の内容と中・古生界地史のポイントについて紹介する。

(地質部)

新生界研究の進歩と100万分の1日本地質図改訂

鹿野和彦・土谷信之

100万分の1地質図(第3版)における新生界の岩相と年代の区分は、多くの年代層序学的資料と広域的な地質現象に基づいている。講演では区分の背景について解説するとともに新たな区分によって明らかにされた日本列島の成立過程について述べる。

(地質部)

放散虫生層序と地質図

栗本史雄

秩父帯や美濃・丹波・足尾帯の“古生界”を構成するチャートや頁岩の微化石年代が明らかにされ、日本列島の中・古生代地史は大幅に見直された。この進展に大きな役割を果たした放散虫化石の研究と地質図との関わりを概観する。

(地質部)

新生代年代層序学の進歩と地質図

柳沢幸夫

地質図に表現されるさまざまな地質現象は、年代層序学的な枠組みの中に正しく位置づけることによってはじめて正確な解釈が可能になる。講演では、新生代における微化石年代層序学をはじめとする年代層序学の最近の進歩と現状を紹介するとともに、100万分の1地質図などの地質図の作成における年代層序学の役割について述べる。

(地質部)

* 平成5年11月15日 東京、石垣記念ホールにおいて開催

主催 工業技術院地質調査所、(財)日本産業技術振興協会

火山堆積相の解析と地質図

山元孝広

日本列島はプレート沈み込み帯の火山活動が活発な地域である。本講演では火山堆積相のマッピングに基づいて復元される第四紀以前の火山体の内部構造とそこから見えてきた10⁶オーダーの超長期の火山活動サイクルについて述べた。

(地質部)

応用地質学と地質コンサルティング

大矢 暁

環境問題が大きく取り上げられる時代になって、地質コンサルタントの役割も、より幅広い視野に立って考える必要がでてきた。現実の問題としては、地下水に関連する問題が多い。新しい社会の要請に対して応用地質学をどう発展的に考えればよいのか、そのために期待される地質情報は何かについて触れる。

(応用地質株式会社社長)